

授業科目	授業概要	開講日	形態
考古学特論A	先史・古代における考古学の発掘調査・研究事例を、特に関連諸分野との学際的な研究成果を中心に考察する。本講義では先史時代の動物飼養に関連する事例を考古資料から捉え、動物飼養の推移と発展の背景について理解を深める。	—	オンデマンド
アジア美術史特論A	奈良時代後期—平安時代中期の仏教美術史について考察する。教科書『日本仏像史講義』に沿って、日本彫刻作品を中心に講義を行う。飛鳥時代—奈良時代の内容はこの授業の冒頭でも簡単に説明する。仏教美術の鑑賞の方法を身につけること、近郊の寺社・美術館・博物館に仏教美術の作品を見に行き、実見した作品について分かりやすく説明することができるようになることを目指す。	—	オンデマンド
日本中世史特論A	本講義では、日本中世史の諸論点をとりあげ、近年の研究動向を提示し、今後の研究の方向性を展望することを目指す。	木曜・5-6限	対面
文化財学特論A（木簡学）	本講義では、平城宮・京跡から出土した木簡を主たる素材として、出土文字資料の取り扱いや木簡の史料的特質を学び、個々の木簡あるいは木簡群からどのような歴史情報が引き出せるかを参加者全員で討議する。	水曜・午後	対面
文化財学特論B（東アジア考古学）	日本の古代文化は、東アジア諸国からさまざまな影響を受けて成立してきた。本講義では、日本文化に影響を与えたと考えられる中国や韓国の考古学的研究を中心に、紀元前から古代までの日本の文化と比較検討し、彼此の間で具体的にどの部分がどのような影響関係があるかを明らかにしていく。主に考古学の研究成果を検討の中心とするが、必要に応じて、歴史学、美術史、建築史等の関連諸科学の成果も参照する。	水曜・午後	対面
文化財学特論C（歴史考古学）	本講義では、8世紀平城宮・京をフィールドとして、歴史考古学の概念と研究史を学び、研究手法の習得を目指す。出土遺物の考古学的な観察方法を習得する実践的内容と文献史学の成果の紹介を融合した、体系的な講義とする。	水曜・午後	対面
文化財学特論D（日本古典文化資料論）	日本の古典資料のなかで大きなウェイトを占めるものに、仏教資料がある。写経や聖教といった典籍はその代表と言えるが、その内容だけでなく、どのような形態をしているのか、そしてどのようにそれらが作成され、伝来してきたのかという背景も、当時の文化や社会を理解する上では必要である。本講義では、実際の資料（文化財）事例をもとに、基礎的な知識から個別の資料まで、総合的な情報を理解していく。また、実際の資料をもとに、伝来情報などを読み取る方法を習得する。	水曜・5-6限	対面
文化財学演習E（古代文化学）	文化財保護法の改正とその後の施策、文化財防災、文化財の返還を取り上げ、国、都道府県、基礎自治体の取り組み事例を題材として文化財の保存、活用、継承に関する理解を深める。	金曜・9-10限	ハイブリッド